

戦争のこわさをしって

古堅南小学校六年 仲地 嬉子

戦争の話聞いて、戦争って、とってもこわくて、おそろしい物なんだと思いました。今、わたしが聞いてて、鳥はだがつぐらいビックリした事があったのに、じっさいに、体験した人は、今、わたしが、聞いたよりも、とってもこわかっただろうなと思うと、すごい時代を生きてきたんだなあと思います。わたしだったら、血も、たくさんでて、腸も、とびでているのを、見るだけでも、気もちわるいと思うってしまうのに、腸をおなかの中にもどそうと、おしこんだって、勇気のある事で、子どもの命を守るために、必死になってお母さんがとった行動だと思います。それに、空からは、ばくだんが、雨のようにおちてきて、下にはなくなつた人がたくさんいて、あたりまえのように、人が、つぎつぎになくなつていって、赤ちゃんも、泣いてうるさかつ

たら、アメリカ兵に見つかるからといって、ころして、もし、わたしも戦争の場において、小さい子供を、もつお母さんだとしたら、アメリカ兵に、見つかるとしても、おなかをいために、産む自分の大切な子供なので、ころすような事はできないと思います。おそろしい時代だったんだなあ、戦争は人の心までもくるわせてしまうものだなあと思います。戦争の話を聞いて、とつても、いんしょうにのこった事は、今の時代では、ありえない事だらけが、いっばいあったことが、よくわかりました。

これから、お母さんが、わたしたちをおなかをいたためて産んでくれた命を、あらためてたいせつにしようと思いました。そして同じように他の人の命も大切なものだと思います。

世界にはまだ、戦争をやっている国もたくさんあるようです。日本のような、今の生活が、あたりまえのことではないことにも、気

付きました。世界の人が、仲よく、あら
そい事のない、明るく、HAPPYなみらい
になって、平和なみらいになりますように。
私たちが一人ひとりが何かできるか、考えてい
こうと思います。